

地震

慌てず、落ち着いて 大切な人を守るための
安心避難フロー

地震は突然起こります。いざという時に迷わず動けるよう、発生直後から避難生活までの流れを、シミュレーションしてみましょう。

Phase 1

地震発生直後 その場で身を守る

揺れを感じたら、姿勢を低くして頭と首を守りましょう。揺れが収まるまで動かないことも大切です。

状況に合わせて安全な場所へ移動

1 海岸付近にいる人

海岸から離れた高い場所へ

2 自宅にいる人

近隣の公園や空き地など一時避難地へ

3 1 2に該当しない人
(通勤、通学、外出中)

看板の落下やブロック塀の倒壊などに注意し
近くの広場などへ

ワンポイント

今すぐできる「家の中の備え」

- ☐ 枕元にスニーカーなどを用意
- ☐ 寝室に倒れる家具を置かない
- ☐ 家具はL字金具などで固定
- ☐ ガラスには飛散防止フィルムを貼る



普段の生活から足元に気を配りましょう

Phase 2

生活場所の選択 今夜どこで過ごすか

安全が確保された後、自宅の状況に応じて「生活の拠点」を判断しましょう。

自宅は安全ですか？

倒壊や崖崩れの危険がなく
住み続けることができる

YES

在宅避難

住み慣れた自宅で
備蓄を活用し、生活



震災時避難所
一覧

NO

震災時避難所

指定された小中学校
などへ移動し、共同生活

近くの避難所

火災が発生したら 広域避難地へ

大規模火災が広がり、一時避難地が危険になった場合は「広域避難地」へ移動。



広域避難地
一覧

近くの避難地

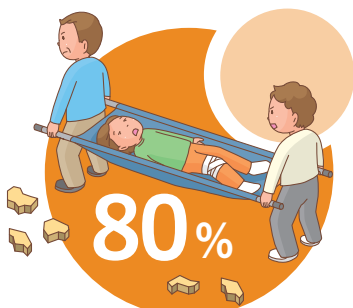


この標識が目印

ワンポイント

救出のカギは「地域の助け合い」

阪神・淡路大震災では、自力脱出が困難だった人のうち、約80%が近隣住民によって救出されました。公的な救助が来る前に、あなたの一声と助け合いが、隣の人の命を救います。



ひと目でわかる 我が家の災害リスク

土砂災害警戒区域や洪水浸水想定区域、津波などの災害リスクを地図上で確認できる「災害リスクマップ」を知っていますか。

海・山・川がある横須賀市では、地域によって土砂災害や洪水、津波など、複数のリスクがあります。また、災害時に道路が寸断され孤立する恐れも。

自分の住む地域の特徴やリスクを知り、災害の種類に応じた避難先や避難経路を、家族とも共有しておくことが大切です。

いざという時に命を守るため、災害リスクマップを日頃の備えに役立てましょう。

各種リスクマップ
情報



2024年に全世帯へお届けしました。現在は市役所でも配布中です。